

外語大着任「以前」と「以後」―研究業績一覧から振り返る

野本 京子

NOMOTO KYOKO

東京外国語大学大学院国際日本学

Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Japan Studies

Quadrante, No.19, (2017), pp.225-228.

クアドランテ編集委員会から、研究業績一覧の掲載について連絡をいただき、少々、慌ててしまいました。これまで自分で書いたものについてきちんと整理をしておらず、探してみると手元にないものもあって、我ながら「なんといいかげんなことか」と反省いたしました。それでも良い機会をいただいたと思い、分かる限りで一覧を作成した次第です。以下、退職にあたって、自分の関わってきた研究・仕事を振り返ってみました。

外国語学部日本語学科に着任したのは1988年4月。この88年度は昭和から平成へと変わった年でした。一覧を眺めると、当然かもしれませんが、外語大への着任以降に執筆したものが圧倒的に多く、また外語大に着任したからこそ関わった仕事もあることを再確認いたしました。例えば、『北区史 通史編 近現代』そしてその前提となる資料編の編纂です。外語大着任早々、地元自治体史の編纂事業に関わることになったのです。

北区史現代史部会の責任者ということになり（され）、どうなることかと思いましたが、結果的には大変多くのことを学ぶ場となりました。私の専門領域は、都市と農村という空間的観点でいえば完全に農村サイドでしたから、戦間期に都市化が急速に進み、ゴミ問題等も生じていた現在の北区地域を対象に調査・研究ができたことは大変新鮮であり、また都市と農村の関係史という視点をより強く意識する契機になりました。まさに外語大が北区に立地していたからこそ関わったのであり、都市河川の問題や戦後の軍事施設の接收や軍用地解放（都市部における農地改革の一形態）について調査・執筆したことにより、多くのことを学び、考えることができました。

もう一点、この一覧からたどれることは、着任

以前は関心を維持しつつも、形（論文）になっていなかったテーマに接近できたことです。私自身の今に至るまでこだわってきたテーマは、日本の近代化・現代化のあり方や特色を照射するものとしての「農本主義」です。このテーマについては、外語大に着任後しばらく経ってから単著として刊行できましたが、もう一つ、学部時代から「いつかは」と思っていたテーマがありました。農村女性史、生活史への関心、いわば「農村ジェンダー」、「農村生活」に関わるテーマです。私が生まれ育ったのは埼玉県北部の水田地帯であり、東京への通勤圏です。その土地の景観をも大きく変えた暮らし（生産・生活）の激変を、農家女性の家庭や地域社会でのあり方に焦点をあてて検討してみたいと思ったのです。戦前から戦後高度経済成長期にいたる生活の変化と農村女性の主体的営みを描きたいという、この課題はまだ果たせていません。

とはいえ、外語大への着任後、本当に遅々とした歩みではありますが、戦時下の農村生活や同時代の都市消費者の食生活や食料問題についての論文など、多少、課題に接近したテーマについて執筆する機会がありました。さらにその後、農村地域を舞台に展開した生活改善運動やそこに関わった女性の生活や意識を射程にのこした研究を始めたのですが、これは途中で止まったままです。この東北農村セトルメント運動とそこに深くかかわった女性のライフ・ストーリーについてまとめてみたいというのが今後の課題です。ちなみに研究のフィールドの生保内セトルメント（1935年設立）があった秋田県仙北郡生保内村（現在 仙北市）は、本学の研修施設であるTUFST田沢湖温泉ロッジの所在地でもあります。



研 究 業 績

I. 著書 (単著)

1. 『戦前期ペザンティズムの系譜 農本主義の再検討』日本経済評論社, 1999, 239pp.
2. 名著に学ぶ地域の個性 2 〈市場と農民〉『「生活」「経営」「地域」の主体形成 市場と農民』農山漁村文化協会, 2011, 220pp.

II. 著書 (共著・共編著)

1. 「農業委員会の歴史的位罫」(椎名重明編『団体主義 (コレクティヴィズム) その組織と原理』東京大学出版会, 1985, pp.239-266.)
2. 「戦前期「農村指導者」の農民観—横井時敬と岡田温を中心に—」(椎名重明編『ファミリー・ファームの比較史的研究』御茶の水書房, 1987, pp.369-389.)
3. 八潮市史編さん委員会『八潮市史 通史編II』(八潮市役所, 1988.07.)
 - ・第5編第6章第2節「模範村の誕生」, pp.289-304.
 - ・第6編第1章第1節「地方改良運動の展開」, 同第2節「地方行政と治本会」 pp.361-402.
 - ・第6編第3章第3節「農事改良と農会」, pp.550-566.
4. 「食生活」(日本村落史講座8『生活III 近現代』雄山閣, 1991.)
5. 「生活史と資料」(松平誠・中畠那編著 講座生活学3『生活史』光生館, 1993, pp.37-59.)
6. 北区史編纂調査会『北区史 通史編 近現代』(東京都北区, 1996.03.)
 - ・第7章第3節「関東大震災と地域」, pp.229-244, 同第6節「普通選挙の実施」, pp.257-264.
 - ・第8章第2節「農業の衰退と種苗業の動向」, pp.299-312, 同第4節「荒川の河川改修と都市河川」, pp.327-333.
 - ・第9章第1節「市域拡張をめぐる動向」, 第2節「王子区・滝野川区の成立」, 「区政の開始」, pp.365-396.
 - ・第11章第3節「北区の誕生」, 第4節「戦後復興対策」, 第5節「軍事施設の接收と軍用地解放をめぐる動向」, pp.486-528.
 - ・第12章第1節「軍用地 (TOD) 解放の進展」, pp.549-566, 第3節「戦後工業の動向」, 第4節「商店街の復興と発展」, 第5節「戦後の北区農業と農業委員会の廃止」, pp.585-613.
7. 「家事をめぐる主婦と女中」(大口勇次郎編『女の社会史17~20世紀 「家」とジェンダーを考える』山川出版, 2001, pp.311-332.)
8. 「戦時体制下の農業教育—農業専門学校を中心に—」(河路由佳, 淵野雄二郎, 野本京子著『戦時体制下の農業教育と中国人留学生 1935-1944年の東京高等農林学校』農林統計協会, 2003, pp.3-26.)
9. 「戦時下の農村生活をめぐる動向」(戦後日本の食料・農業・農村 第1巻『戦時体制期』IV 第2章, 農林統計協会, 2003, pp.325-350.)
10. 「都市生活者の食生活・食糧問題」(同上, IV 第3章, pp.351-382.)
11. 野本京子, 坂本恵, 東京外国語大学国際日本研究センター編『日本をたどりなおす29の方法: 国際日本研究入門』東京外国語大学出版会, 2016 (執筆担当「米からコメへ—日本社会のなかの米—」「東日本大震災後の集落の暮らし—丸森の町から—」)

III. 論文

1. 「山崎延吉の農村振興策」(『史艸』20, 1979.11, pp.53-69.)



2. 「農山村経済更正運動下の報徳運動—埼玉県秩父郡久那村を中心に」(『埼玉県労働運動史研究』 13, 1981.9, pp.62-80.)
3. 「農会史研究の動向 一九七〇年代以降」(『農業史研究会会報』 (16) , 13-19, 1984.09.)
4. 「1920～30年代の「農村問題」をめぐる動向の一考察—古瀬伝蔵の行動の軌跡」(『史学雑誌』 94 (6) , 1985.06, pp.1053-1076.)
5. 「産業組合運動の展開過程におけるデンマーク農業論の位置」(『協同組合奨励研究報告』 第11輯, 1985.08, pp.227-254.)
6. 「戦前期農民教育の潮流と農業政策 国民高等学校運動と「農民道場」」(『史艸』 27, 1986.11, pp.1-24.)
7. 「千石興太郎の「産業組合主義」論 その成立まで」(『東京外国語大学論集』 44, 1992, pp.95-113.)
8. 「「農本主義」に関する一試論」(『東京外国語大学論集』 47, 1993, pp.301-311.)
9. 「都市部における農地改革 東京都北区における事例」(『史艸』 38, 1997.11, pp.129-155.)
10. 「1930年代における「農本主義」イデオロギーの「受容」形態—修練農場を中心に」(特集：生活規範とイデオロギー 1930年代日本を中心に 東京歴史科学研究会第36回大会委員会企画『人民の歴史学』 (153) , 2002.09, pp.11-22.)
11. 「東北農村生活合理化運動前史—戦前期『婦人之友』友の会の実践—」(『東京外国語大学論集』 71, 2005, pp.127-143.)
12. 「東北農村生活合理化運動の展開—農村セツルメントの軌跡—」(『東京外国語大学論集』 75, 2007, pp.171-191.)
13. 「戦前から戦後における『婦人之友』友の会の農村生活改善運動—農村友の会の活動を中心に—」(『東京外国語大学論集』 77, 2008.12, pp.187-207.)
14. 「日本農村における国際結婚—その推移と農村社会」(『日本言語文化』 25号, 2013.10, pp.5-20.)
15. 「日本語・日本学研究の架橋」(『国際日本学研究所の基層 一台日相互理解の思索と実践に向けて—』 日本学研究叢書 第1号, 2013.10.)

IV. 書評

1. 大竹啓介著『幻の花 : 和田博雅の生涯 (上)』(『史艸』 23, 1982.11, pp.48-54.)
2. 板垣邦子著『昭和戦前・戦中期の農村生活 雑誌『家の光』にみる』(『史学雑誌』 第102編第6号, 1993.06, pp.99-108.)
3. 森武磨著『戦時日本農村社会の研究』(『日本歴史』 (630) , 2000.11, pp.124-126.)
4. 安藤哲著『大久保利通と民業奨励』(『農業経済研究』 第72巻第4号, 2001.03, pp.186-188.)
5. 坂本昇著『近代農村社会運動の群像—在野ヒューマニストの思想』(『歴史評論』 (644) , 2003.12, pp.85-89.)
6. 中西僚太郎著『近代日本における農村生活の構造』(『社会経済史学』 72 (3) , 2006.09, pp.359-361.)
7. 内山和義『日本における近代農学の成立と伝統農法—老農船津伝次平の研究』(『農業経済研究』 第85巻第3号, 2013.12, pp.196-198.)
8. 松田忍著『系統農会と近代日本 : 一九〇〇～一九四三年』(『大原社会問題研究所雑誌』 (661) , 2013.11, pp.79-83.)
9. 伊藤淳史著『日本農民政策史論—開拓・移民・教育訓練—』(『社会経済史学』 81 (2) , 2015.08, pp.267-269.)

V. その他

1. 解説 稲田昌植著『婦人農業問題』（日本図書センター, 1982.）
2. 「食糧管理制度形成期の米消費」（東京外国語大学『日本語学科年報』11, 1989, pp.93-95.）
3. 監修 北区史編纂調査会『北区史 資料編 現代1』（東京都北区 1995.）
4. 「関東大震災時の地域史料から見えてくるもの 北区の事例から（『地方史研究協議会第47回（1996年度）大会特集・1 地方史の再生—多様性からの出発』）」（『地方史研究』46（4）, 1996.08, pp.21-25.）
5. 静岡人物誌「巨峰と大井上康」（季刊『静岡の文化』54号, 1998.09, pp.50-55.）
6. 「近代史部会（1999年度歴史学研究会大会報告批判）」（『歴史学研究』（731）, 1999.12, pp.41-44.）
7. 「各国におけるオーラル・アーカイヴズに関する中間報告」（『史資料ハブ地域文化研究』（1）, 2003.03, pp.89-94.）
8. 「企画説明（＜企画＞シンポジウム：消えゆく声を聞く／見えないものを見る オーラル・ヒストリーの可能性とアーカイヴの課題）」（東京外国語大学大学院地域文化研究科 21世紀 COE プログラム『史資料ハブ地域文化研究』（2）, 2003-09, pp.9-11.）
9. 「各国におけるオーラル・アーカイヴズに関する報告」（『史資料ハブ地域文化研究』（2）, 2003.09, pp.112-116.）
10. 「趣旨説明 シンポジウム〈残された声〉がもたらす豊穡 オーラル・ヒストリーの可能性とアーカイヴズの課題（2）」（『史資料ハブ地域文化研究』（5）, 2005.03, pp.9-11.）
11. 「山崎延吉」（伊藤隆・季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典2』2005, pp.226-227. 追加情報「山崎延吉」『近現代日本人物史料情報辞典4』2011, pp.346-347.）
12. 「ムラ（集落）とジェンダーの視点から「地域力」を考える」（シンポジウム「共生」とは何か 暮らしと「農」の現場からのアプローチ）（東京農工大学『人間と社会』17, 2006.03, pp.63-65.）
13. 「農村における生活改善運動—恐慌期から戦時下を中心に—」（国立民族博物館国際研究フォーラム「20世紀の日本における生活習慣と物質文化の近代化／西洋化の国民生活に対する『生活改善運動』の具体的影響、および西洋化運動における政府の役割」要旨集, 2010.10, pp.15-17.）
14. 「日本語教育にとっての日本文化・社会論」（台湾文藻外語学院日本語文系国際学術討論会『会議論文摘要集』, 2011.10.）
15. 新刊紹介 近代女性文化史研究会『占領下 女性と雑誌』（『ジェンダー史学』第7号, 109-110, 2011.10.）
16. 「賀川豊彦の農業論にみる地域・生活への視点」（第14回日中韓農業史学会国際大会 “East-Asian Agriculture and Globalization; Its regionality and generality” キイノートスピーチ,『概要集』2016.09, pp.48-57.）
17. 新刊紹介 小山静子編『男女別学の時代』（『ジェンダー史学』第12号, 2016.10, pp.131-132.）